

## 岩手県野田村の支援・交流活動報告（2016年3月11日）

本日の活動は、野田村での東日本大震災犠牲者追悼式への参加でした。去年は、大雪による高速道路の追行止めて、追悼式への参加が叶いませんでした。昨年とは違った本日は晴天で、道路にも雪はなく、穏やかな天候でありました。参加者は、学生が9名、一般市民が24名、取材記者が1名、引率教員1名で、全部で35名でした。参加者には、震災直後の支援活動から参加しているベテランの市民や、今回は初参加の方などもおられました。また、ボランティアセンターの学生事務局のOBとOGの方も遠方から参加してくれました。



おりつめて集合写真



野田村の様子

バスの中では、簡単な自己紹介と震災5年目を迎える感想などを話しました。学生事務局の卒業生からは、震災直後の活動への思いやボランティアセンター設立前後の様子など詳細な話があり、震災直後の様子を思い出すことが出来ました。野田村に到着後、追悼式の前に、役場前から海まで歩きながら、震災直後の様子や復興状況に関する話などを参加者の方と一緒に話しました。村の中心地では、岩手銀行野田村支店の再開や復興住宅の入居が一段落しており、復興が徐々に進んでいる様子がうかがえました。

追悼式は、14時30分から野田村体育館で行われ、市民と学生の皆さんが参列しました。追悼式の後には、野田村学習センターの多目的ホールで、「東日本大震災から地域復興を考える」フォーラムに全員で参加しました。フォーラムでは、野田村でチームオール弘前と一緒に活動している「チーム北リアス」の各団体による活動報告と今後の活動計画に



追悼式の様子(野田村通信ブログより)



フォーラムの様子

関する報告が行われました。そして、第2部では野田村の小田村長と大阪大学の渥美先生、そして本学の李が座談会形式で、震災から5年間の活動を振り返りました。村長からは、チーム北リアスの方が野田村にいて当たり前の存在になっている、野田村の家族の一員になっていると、大変ありがたい言葉がありました。渥美先生からは、これからも末永い関係を築きたいと感謝の言葉がありました。

帰りのバスでは、本日の活動の感想では、「昨年度は追悼式に来られなかったが、今回は参列できてよかった」「フォーラムを通して、震災から5年間の活動が良く理解できた。各団体の継続的な取り組みに感心した」「これからも継続して野田村に通いたい」という声がありました。

最後に李から、5年間の活動を支えてくださった市民、学生、関係機関の皆さんへの感謝の言葉がありました。そして、5年間継続してきた野田村への定期便を改め、新年度からは野田村の地域資源である市日への支援を行いたいという報告がありました。参加者からは、新年度の活動にもぜひ参加したいとの温かいご声援がありました。2016年度も引き続き、野田村交流活動へのご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

(担当:李永俊)